2014年11月号「vol.53」◎編集：新井絹世　横浜市磯子区丸山2-24-3　◎電話：045-751-5250 ◎FAX：045-761-7451

県議会議員

あらい絹世の 磯っ子レポート

県政をもっと身近に

http://www.araikinuyo.jp

来年12月には最先端の重粒子線治療も 神奈川県立がんセンター新病院が1周年

がんは人間が進化する中で病の種を人体に植え込んできたもので、自然界の動物にはほとんど見られないといいます。ひところ「不治の病」と恐れられもしてきましたが、医療の発達で今では「がん全体では6割、早期発見なら9割が治る時代」になったと言います。しかし日本人にとって国民病といえる厄介な病であることに変わりはありません。2人に1人が患者となり、年間全死亡者（約120万人）の3人に1人ががんで命を落としている状況です。近年、再発や転移の原因が、がん細胞に隠れているがん幹細胞によって引き起こされていることが分かり、この根絶法などさまざまな研究が進められています。

こうした中で神奈川県内のがんの拠点病院と位置づけられている県立がんセンター（横浜市旭区中尾2丁目）について県では、旧来の老朽化した施設を建て直し、昨年11月、設備、診療内容ともにぐんと充実した新しい病院を開院させました。新たに漢方サポートセンターを設置し、漢方診療・相談、栄養サポート、東洋医学への理解促進講座などを行っています。そして新病院の目玉は最先端治療法の重粒子線治療の施設・設備が新設されたことで、来年12月の治療開始を目指して準備が進められています。

同センターの歴史と新病院　1963年、現在地に県立成人病センターとして設置された施設が1986年、がん専門病院の県立がんセンターになった。2013年開院した新病院は地下1階地上7階建ての病院棟、5階建ての管理研究棟、地下1階地上2階建ての重粒子線治療施設からなり、外来診察室が32室から56室に、手術室が7室から12室に増やされるなど施設、設備、治療内容とも拡充された。新病院にするための事業費は約661億円かかった。

重粒子線治療　主ながん治療には外科手術、放射線治療、化学療法があるが重粒子線治療はX線などとともに放射線治療の一つ。炭素イオンを光の速さの70%のスピードでがんに照射するもので、体の深い所にあるがんをピンポイント照射するため周りの正常な細胞を傷つけにくく、副作用が少なくなる。がん殺傷能力が強いためこれまでの他の放射線治療では効きにくかった肉腫などの難治性がんにも効く。ただ広範な転移のあるがん、血液がんなど照射場所が定まらないものは治療の対象にならない。同センターの施設は全国で5番目。同治療の料金はどの施設でもほぼ300万円となっており、健康保険の適用外のため高額となる。今のところ民間の医療保険に特約を付けて備えるのが一般的のようだ。

コレが言いたい！

重粒子線治療は「切らずに根治させる」治療の代表的なものでがん患者の生活の質を維持・向上させることができるすばらしい治療です。県立がんセンターでは、重粒子線治療装置導入5年後（平成31年）には治療患者数を660人と想定しています。しかし、高額な治療費が全額自己負担となることや治療を行う医学物理士の人材確保・養成が課題です。

今月のひと言

11月5日は「津波防災の日」です。津波が発生したときにどこに避難するのか、自宅や職場の近くの避難場所や避難経路を事前に確認し、より高い所へ避難して下さい。

磁子 あれ？これ？

横浜の鉄道物語

JR根岸線の（桜木町～磯子）間が、昭和39（1964）年5月に開通し、今年50周年を迎えましたが、根岸線が誕生する昭和39年以前は、横浜～桜木町間で東海道本線の枝線でしかありませんでした。

桜木町から西の当初の延伸計画は現行とは異なり、大岡川沿いに南区蒔田から保土ヶ谷方面に向い、東海道線と並行し、大船駅に到達する予定でしたが、大正12年の関東大震災により工事は頓挫し、計画そのものも廃止となりました。

昭和11（1936）年横浜市は鉄道省に対し、東京・桜木町間の鉄道を横浜市芝生町（根岸）迄延伸するよう請願書を提出し、同年の鉄道会議に於いて桜木町～北鎌倉に至る鉄道が予定線に挙げられました。しかし、昭和12（1937）年日中戦争が勃発し、延伸予定線は戦時輸送との関連性が低いと見なされ建設は中止とされました。

終戦後の昭和27（1952）年連合軍との講話条約が成立すると、アメリカ軍に接収されていた地域や施設の接収解除が始まるようになり、横浜市も中断されていた桜大線（おうだいせん）（桜木町～大船）の計画の再開を旧国鉄に陳情しました。昭和31（1956）年に鉄道建設審議会で桜大線建設が承認され、その後運輸大臣の許可を経て昭和34年（1959）年着工、昭和39（1964）年5月に桜木町～磯子間が開通しました。その後、45年（1970）4月に磯子～洋光台間、48年（1973）4月に洋光台～大船間が開通し、晴れて「根岸線全線開通」となりました。

桜木町駅～本郷台駅間の利用客は、一日あたり315,251人に上ります。
（2013年調べ）

参考資料：横浜の鉄道物語

活動報告

手話普及 県条例提案へ
県会3会派 推進計画、県に義務づけ
「社会参加できる環境を」

手話を言語と位置づけ普及を進める「神奈川県手話言語条例（仮称）」を12月定例会に議員提案するためのプロジェクトチームの一員として、条例制定に取り組んでいます。

10月4日（土）日帰り旅行

9月29日（月）、10月1日（水）所属する厚生常任委員会が開催され、右記について質疑をおこないました。

- 「神奈川県薬物の濫用防止に関する条例（仮称）」素案について
- 「県立汐見台病院の移譲」について
- 「休日夜間急患診療所等への運営費補助」について
- 「新たな財政支援制度」について
- 「市町村国民健康保険運営の都道府県移管」について

あらい絹世 プロフィール

- 昭和43年3月8日　横浜市磯子区生まれ
- 横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- 日商岩井㈱ / ㈱メタルワン
- 自民党かながわ政治大学12期生
- 平成23年4月　県議会議員初当選
- 厚生常任委員

あらい絹世に対するご意見・ご感想・ご要望・メッセージをお寄せ下さい・・・・・・・・・・・ FAX 045-761-7451